

## 蔵王山の火山活動解説資料（令和2年2月）

仙 台 管 区 気 象 台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。

蔵王山では、2013年以降、時々、火山性地震や火山性微動が発生し、地殻変動がみられています。今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○活動概況

## ・噴気など表面現象の状況（図1～4、図5-①）

監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

21日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、これまでの観測と比較して、丸山沢噴気地熱地帯の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。また、振子沢付近では、噴気や地熱域は認められませんでした。

## ・地震や微動の発生状況（図5-②③、図6）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

2013年以降、やや多い状態で経過していた御釜の東側から南東側の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震は、2019年11月以降減少傾向がみられています。

## ・地殻変動の状況（図5-④、図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 蔵王山 山頂部の状況（2月12日）

・左図：遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13km）の映像です。

・右図：上山金谷監視カメラ（山頂の西約13km）の映像です。

注1）御釜から噴気が出た場合、高さ200m以上のときに遠刈田温泉監視カメラ及び上山金谷監視カメラで観測されます。監視カメラからは直接見えませんが、赤破線が御釜の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年3月分）は令和2年4月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

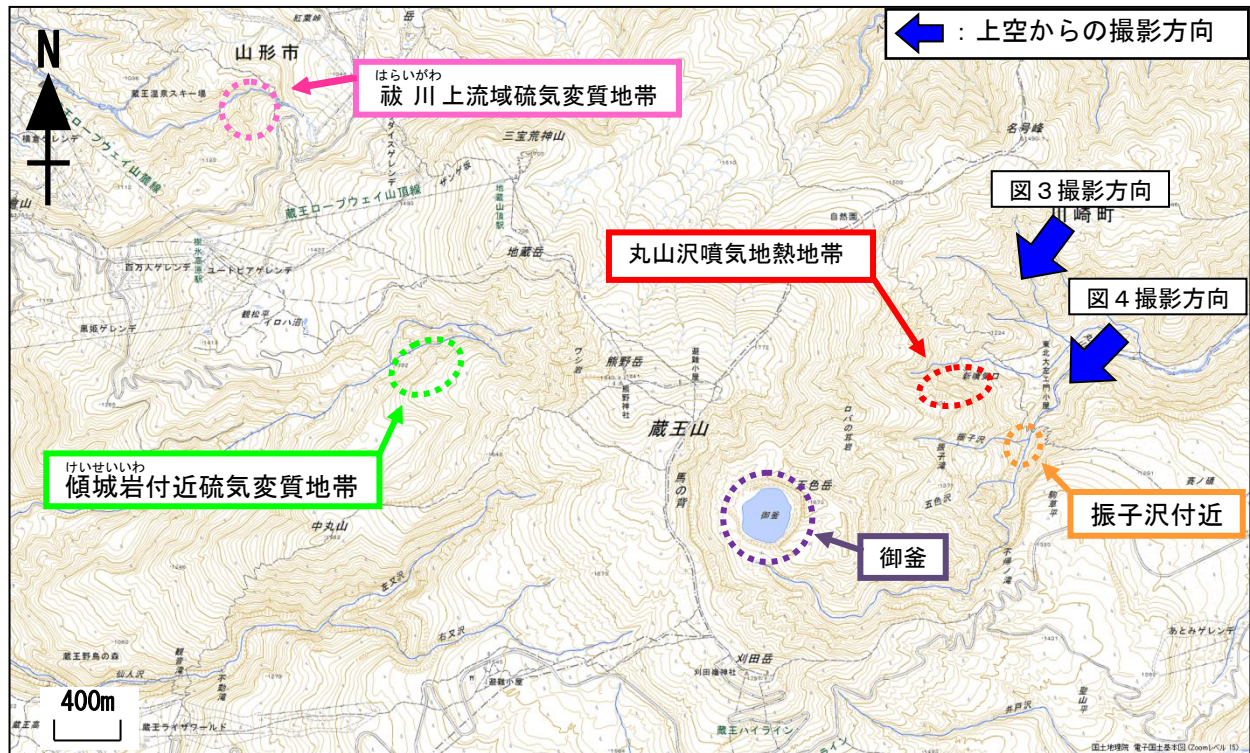


図2 蔵王山 上空から撮影した写真と地表面温度分布撮影方向

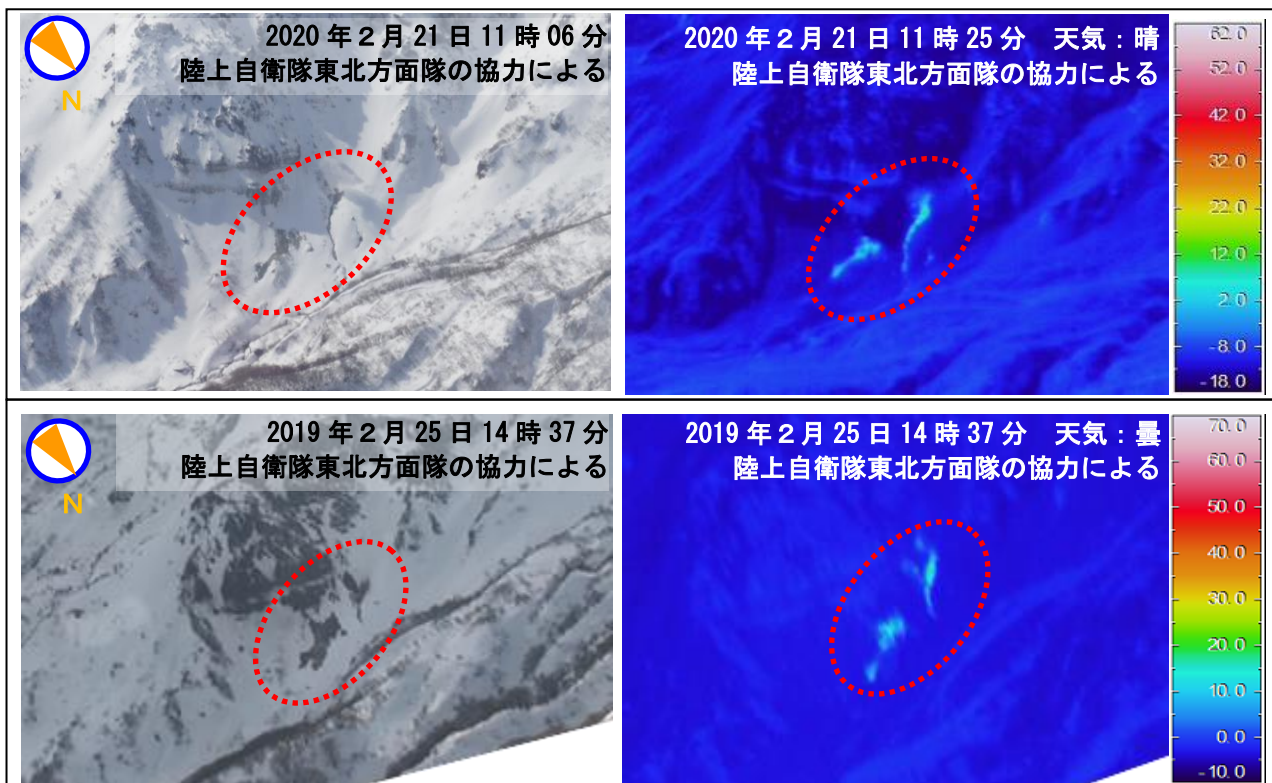


図3 蔵王山 上空から撮影した丸山沢噴気地熱地帯の状況と地表面温度分布

- ・ 噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 赤破線で囲んだ部分が地熱域です。
- ・ 図中の破線の色は、図2の破線の色に対応します。



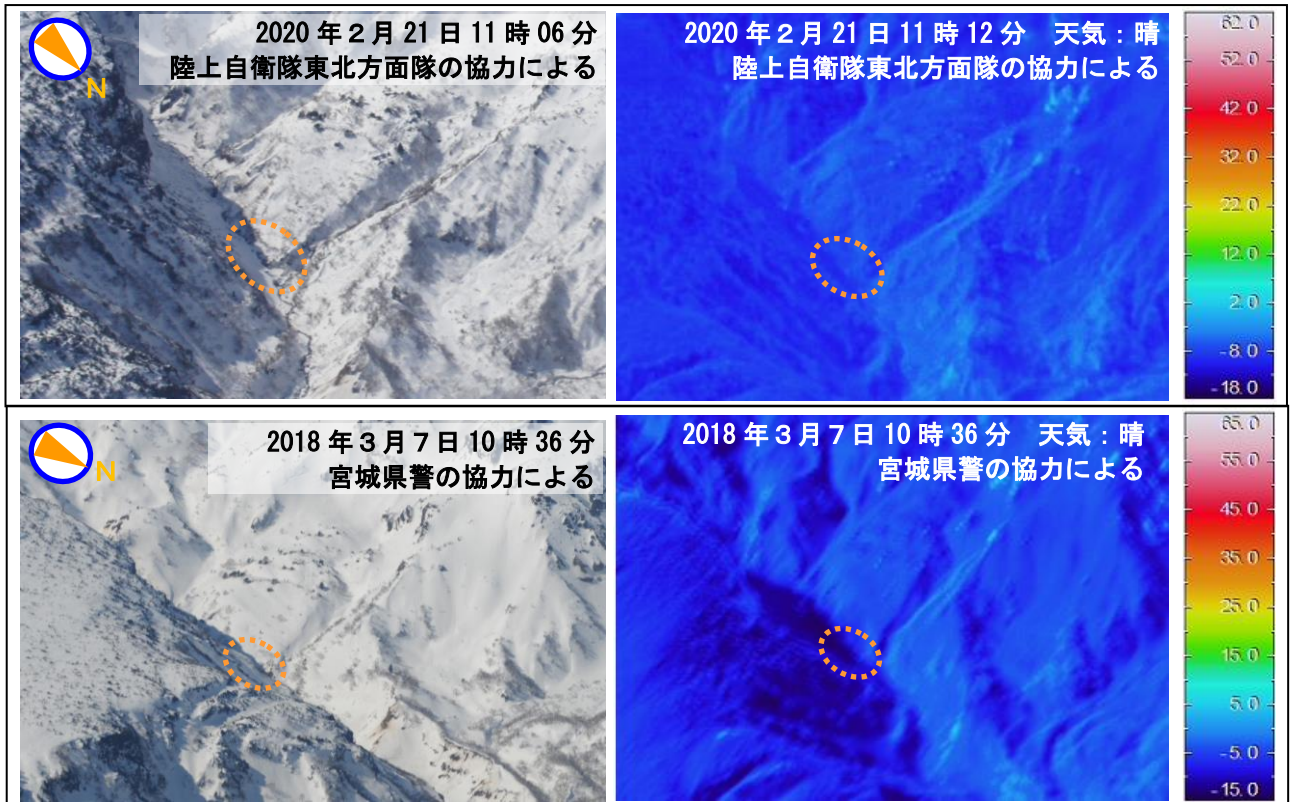


図4 蔵王山 上空から撮影した振子沢付近の状況と地表面温度分布

- ・2015年に温泉湧出がみられていた箇所（茶破線内）において、高温域は認められませんでした。
- ・図中の破線の色は、図2の破線の色に対応します。

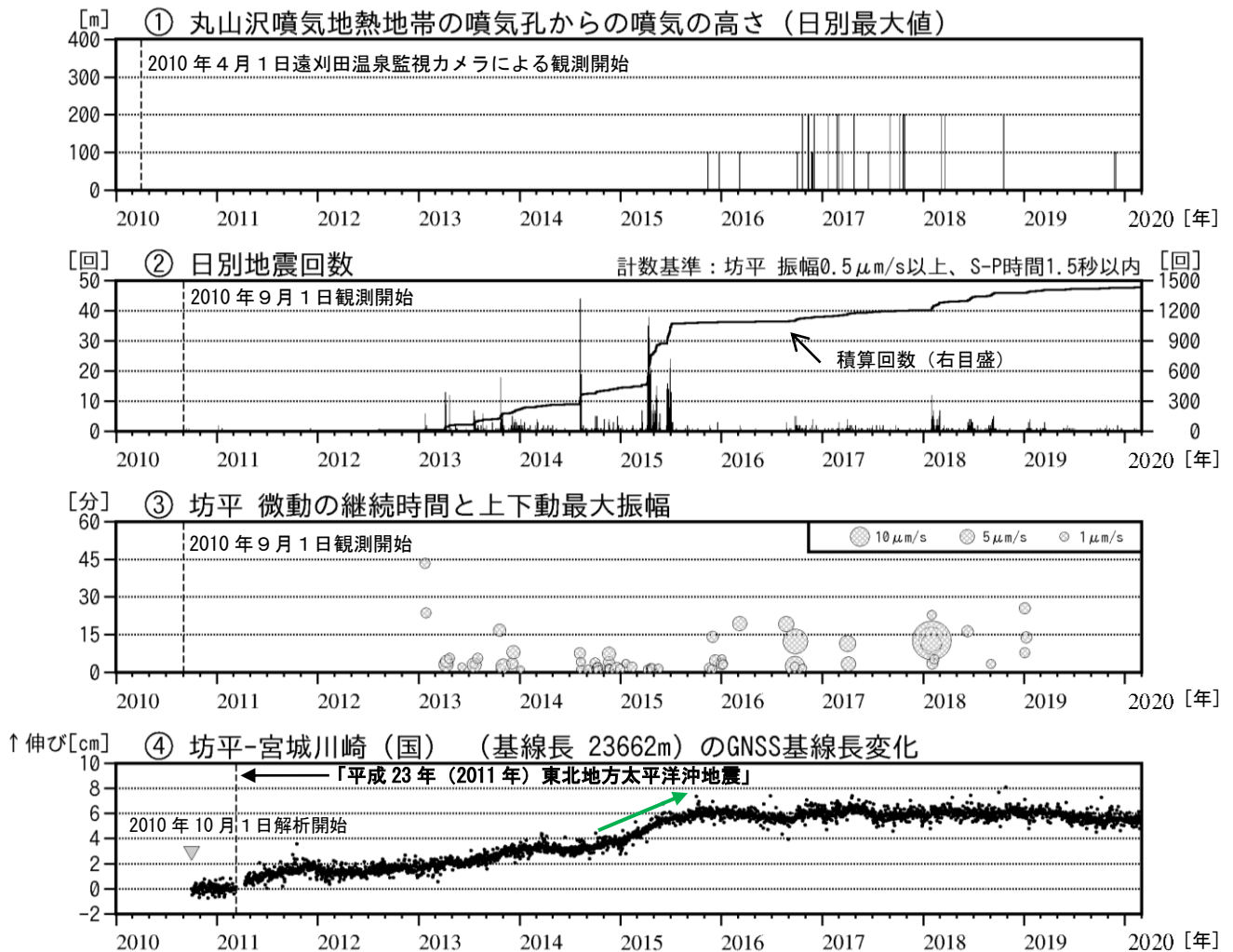
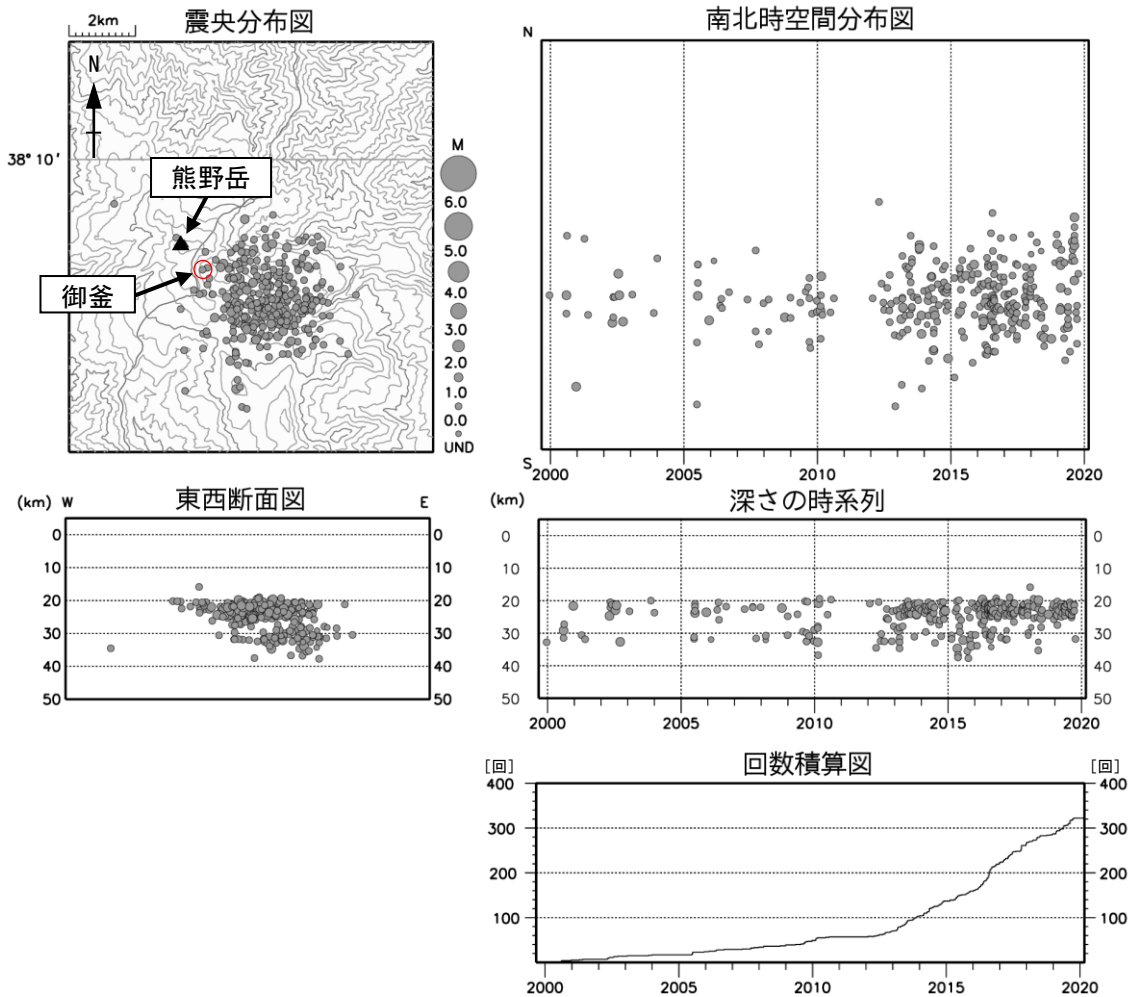


図5 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2020年2月）

- ・①遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13km）による観測です。
- ・④は図9のGNSS基線①に対応しています。
- ・④2014年から2015年の火山活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化が観測されています（緑矢印）。
- ・④「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。



● : 2020 年 2 月 1 日～2 月 29 日      ● : 1999 年 9 月 1 日～2020 年 1 月 31 日

図 6 蔵王山 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999 年 9 月～2020 年 2 月）

- ・ 今期間、深部低周波地震は観測されませんでした。
- ・ 2013 年以降、やや多い状態で経過していた御釜の東側から南東側の深さ 20～30km 付近を震源とする深部低周波地震は、2019 年 11 月以降減少傾向がみられています。

注) 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

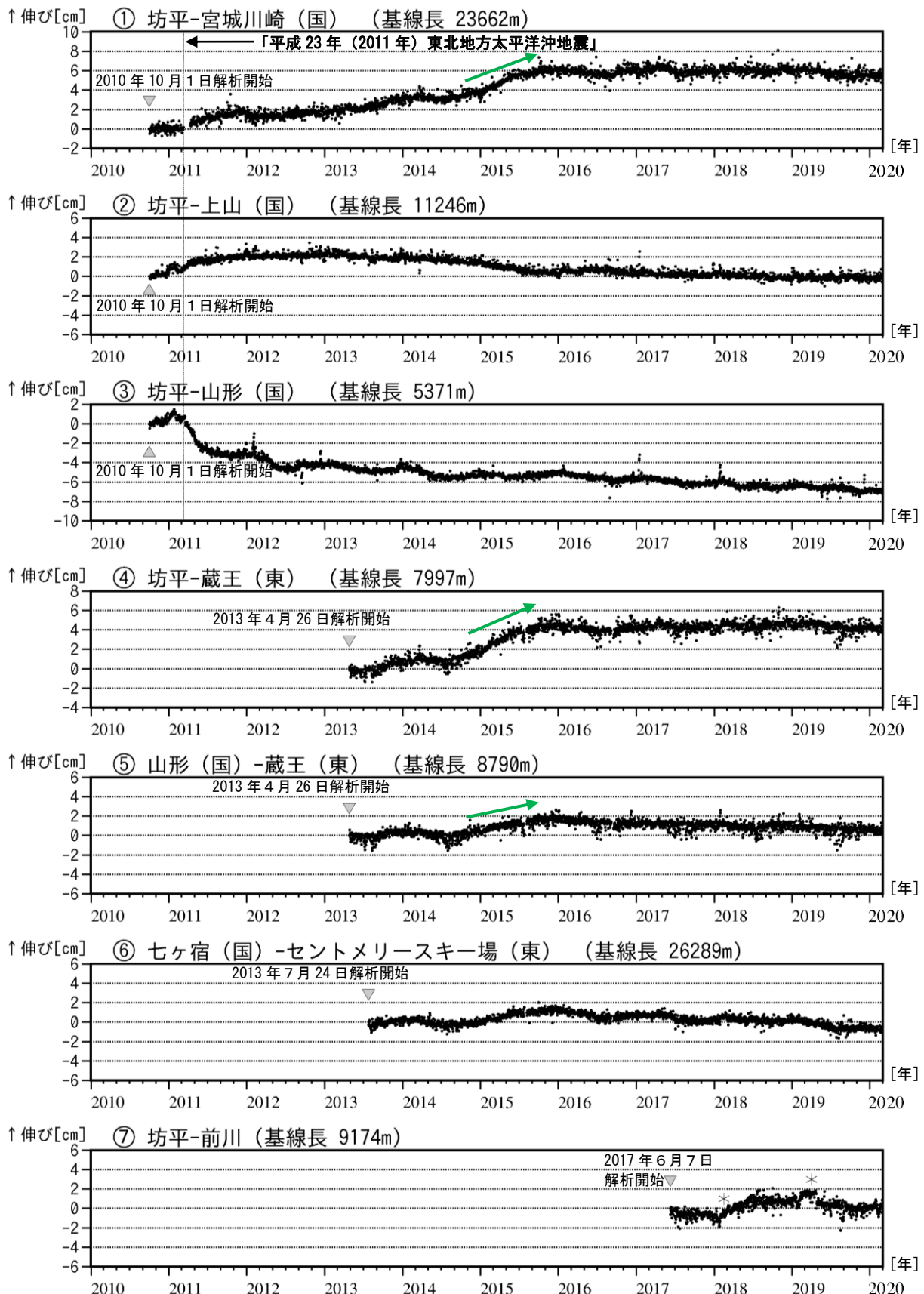


図7 蔵王山 GNSS 基線長変化図 (2010年10月～2020年2月)

- ・2014年から2015年の火山活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化が観測されています（緑矢印）。
- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑦は図9のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。
- ＊：前川観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。



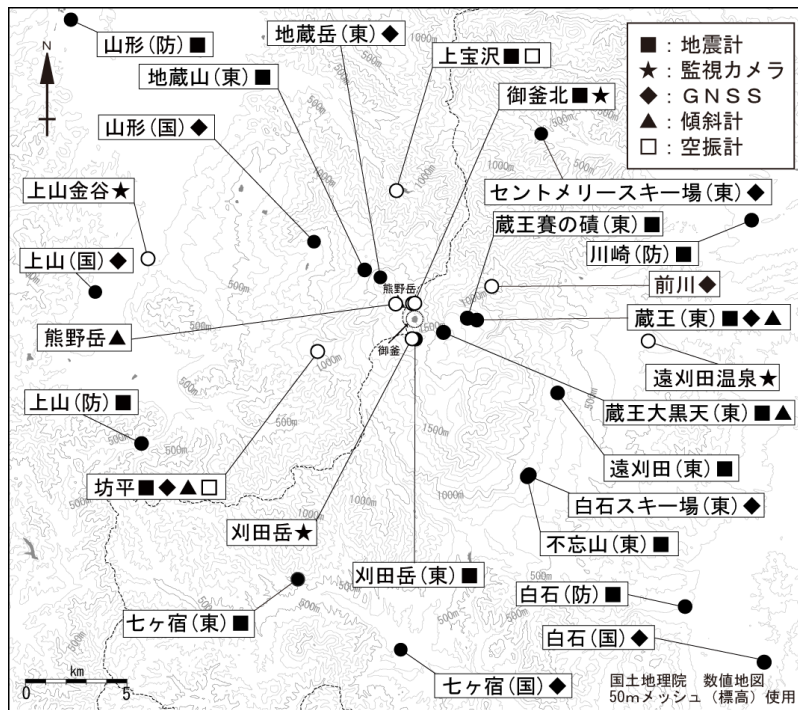


図8 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

※刈田岳：冬期運用休止中。

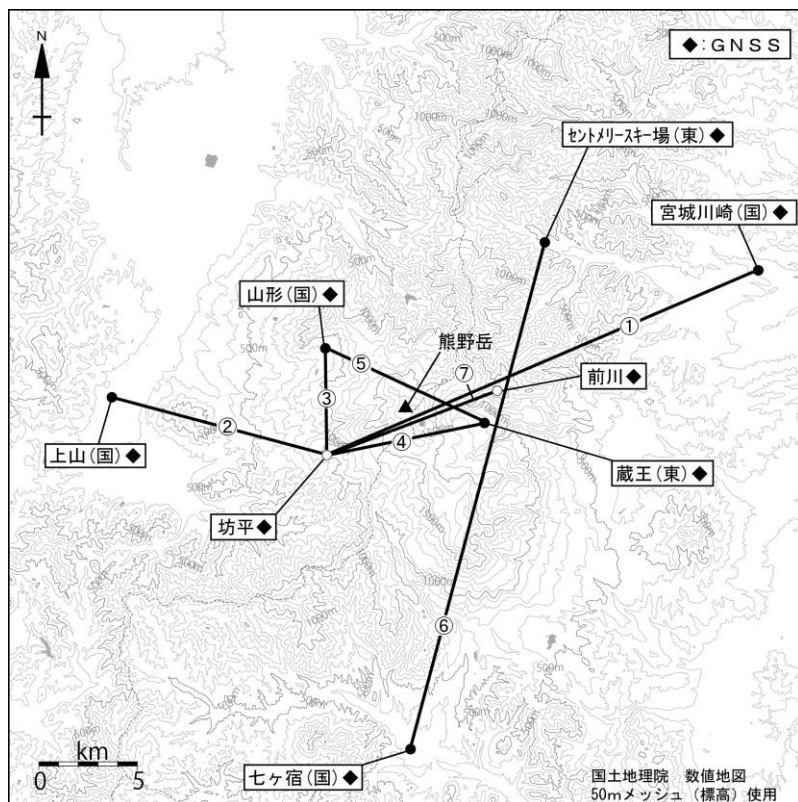


図9 蔵王山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学